

Weekly コラム

平成 28 年 2 月 23 日

〒541-0055 大阪府中央区船場中央 2-1

船場センタービル 4 号館 4 階

船場経済倶楽部

Tel 06-6261-8000

(NPO 法人 SKC 企業振興連盟協議会) Fax 06-6261-6539

人の輪・衆智・繁栄

活動方針



当団体は、異なる業種の経営者が相集い、力を合わせ、自らの研鑽と親睦を通じて、斬新な経営感覚と新たな販売促進を創造して、メンバー同士でより健全な事業所とその事業所のイメージアップを図り、地域社会に貢献できる事業所となることを目的とする。

招き猫のすすめ

日本には、昔からお正月には門松や鏡餅などの縁起物を飾り、一年の発展を願う風習がありますが、現在日本の数ある縁起物の中で「招き猫」が世界でも人気を集めていることはご存知でしょうか。

元々猫は農作物や蚕を食べるネズミを駆除してくれることから縁起物とみなされていました。その後開運招福、商売繁盛をもたらす縁起の良い置物として発展し、今も多くの日本人に支持されています。それが近年では中国や台湾などのアジアを中心に招き猫人気は定着し、最近では欧米各国でも注目を集めるようになりました。ちなみに、先月の4日には時事通信社より「経済危機に見舞われているウクライナの首都キエフの商業施設内で、日本直輸入の招き猫専門店が繁盛している。(中略)市民は『ビジネスがうまくいくように』などと新年に願いを込めて買い求める」というニュースが配信された程です。

そんな招き猫のルーツは諸説ありますが、東京都世田谷区にある豪徳寺説が最も有力です。江戸時代、彦根藩第二代藩主井伊直孝が豪徳寺の前を通り掛った際、寺の飼い猫が手招きをしたため立ち寄りました。すると雷雨が降りはじめ、なんと猫に招かれたお陰で雨に濡れずに済んだのです。それに感銘を受けた直孝は後日に、荒れていた豪徳寺を建て直すために多額の寄進をして復興させました。後世には寺正面左側に招猫堂が建てられ、猫が片手を挙げている姿を象った招猫観音が祀られています。

そして、一言で招き猫と申しまして、形状、色など様々なバリエーションがあり、それぞれに異なったご利益が込められています。まず、右手を挙げた猫には金運招福、左手を挙げた猫には千客万来という意味があります。

また、両手を挙げている猫は全ての福を招く姿を表しているとされますが、逆にお手上げ状態とも判断されることもあるため、両方のご利益を得たい場合には二体の招き猫を揃えるべきです。

次に、色によるご利益の違いを紹介させていただきます。最も多く流通しているのは白で、福を招く色として幅広い支持を得ています。その他、黒＝魔除け、赤＝無病息災、黄＝金運、緑＝学業成就、才能開花、青＝安全祈願、金＝金運、満願成就、銀＝長寿、ピンク＝恋愛成就、オレンジ＝仕事運のご利益があります。さらには手の高さによる違いもあり、挙げられた手が高ければ高い程、遠くの福を呼び寄せ、目の高さ程の低さであれば身近な福を確実に引き寄せるといわれています。

自分の願いに合った招き猫を職場やご自宅に飾り、より良い一年となるように願いを込めてみてはいかがでしょうか。



記事の内容に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。